

おやつのはじめ3 -ちょっとひとやすみ-

—力の入れどころ—

NO. 75



このところ、晴天で暑い日が続いているのに、プランターの土があまり乾かないんですよ。そう、湿度が高いんです。スッキリ青空なのに蒸し蒸しすると、何だか調子がくるいます。咲く花たちも、きっとそう言っていると思います。とはいえ、きれいな花を咲かせるためには、花の手入れもそうですが、土の具合も気になります。まさに土台ですからね。

さてと、話は変わります。子どもたち一人ひとり、得意な面と課題となる面がありますが、変わってほしいこと、育ててほしい部分こそ、なかなか一直線には進まないものです。例えば、偏食の多い子に「食べなさい、食べなさい」と言っても、なかなかメニューは増えません。着替えがまだ上手くできない子に、「こうするの。こうやってみて」と叱咤激励しても、なかなか上手にはなりません。座ってられない子に「座りなさい。ちゃんと座ってね」と何度声をかけても、“はい、わかりました”とはいきません。遊びの少ない子を、あれこれ遊びに誘っても、なかなか振り向いてはくれません。そのように、気になる部分に直接働きかけても、なかなか上手く積み上がらないことが多く、語気だけが強くなってしまいがちです。子どもも「またそのこと〜」と背中を向けてしまっているかも…。“力の入れどころ”を、少し変えてみることをお勧めします。

偏食の子に、強く食べるように勧めても決して食べるようにはなりません。食事のメニューを増やそうとするのではなく、遊びのメニューや人との関わりの手数を増やしていくことに、まずは力を入れていきましょう。メニューの広がりには必ず食事にも反映してきます。

着替えがまだ上手くできない子は、まずは身体作りです。しっかりと姿勢を保てるようになることで、手が空き作業がしやすくなります。しゃがんだり、立ち上がったりが上手になってバランスがとれてくると、衣類に合わせて身体を操ることが上手になってきます。身体をしっかりと止めていられれば、その延長線上にある手先の動きにもつながります。着替えは手伝いつつ、身体をたくさん動かすことに力を入れていきましょう。

遊びを増やしていくには、まずは、目の前のことをしっかり見て、しっかり聞いて楽しめるものを増やし、ギャラリーとして楽しめることを増やす発想が大切です。興味のありそうなことを見つけて、大人が見せて、楽しめる場面を作ります。また、遊びの多くが作業ですから、たくさん身体を動かし、手先の動きの育ちを促していくことが、遊べるものを増やす土台になります。

座ってられない子は、身体を止めているのがまだ難しい場合が多いです。“動かない”という運動ができるようになるためには、身体をたくさん動かし楽しむ（意識する）ことがベースになります。また、“見ること”“聞くこと”が上手になってくると、その場面では身体を止めるものです。そこに椅子を差し出せばOK。前述した、遊びへの関わりがつながっています。

できないことに直接働きかけていくときは、やらせるのではなく、一緒に手伝って最後まで取り組むくらいのつもりでいるほうが、子どもに入っていきます。“一緒”の心地良さを感じるのですね。そして、大人の『力の入れどころ』を変え、子どもが取り組みやすいこと（できること）から入っていく発想で。あんずの活動には全部盛り込まれています。

どこに水をまけばよいかかわると、芽が出てくるのを少し待てますね。(R4. 8) K

